



令和6年10月10日

関係各位

長崎県福祉保健部地域保健推進課
担当：松本、佐々野 内線：4658
電話：直通095-895-2466

日本脳炎注意報の発表

～特に幼児や高齢者は注意が必要です～

県では日本脳炎の流行予測を目的として、毎年6月から9月の間に日本脳炎ウイルスの増幅動物であるブタのウイルス感染状況を調査しています(10頭×8回)。

令和6年度第7回目調査(令和6年9月4日に採血)において、10頭のブタから日本脳炎ウイルスに最近感染したことを示す抗体を検出しました。

日本脳炎ウイルスは、ブタの体内でいったん増えて血液中に出てきたウイルスを「蚊」が吸血し、その上で「蚊」がヒトを刺した時に感染するため、日本脳炎が発生しやすい状況になったと考えられます。

本県では、令和3年(平戸市1例)、平成28年(対馬市4例)、平成25年(諫早市1例)に患者の発生届がありました。

肌寒くなってきましたが、まだ蚊の活動時期にあることから、日本脳炎予防の周知にご協力をお願いします。

長崎県と全国の患者発生状況(人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6*
長崎県	1	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0
全国	9	2	2	11	3	0	9	5	3	5	6	4

※令和6年10月2日時点

日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症であり、ヒトにはウイルスを持っている蚊(主にコガタアカイエカ)に刺されることにより感染します。患者発生は西日本に多く、蚊の発生時期である夏から秋にかけて報告されています。ヒトからヒトへの感染はなく、また感染者を刺した蚊に刺されても感染することはありません。

潜伏期間：6～16日

症 状：数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、急激に、光への過敏症、意識障害(意識がなくなること)、けいれん等の中枢神経障害(脳の障害)を生じる

発 病 率：感染者およそ100～1,000人に1人

致 死 率：脳炎を発症した場合20～40%(幼児や高齢者では危険が高くなります)

予 防 法

■ 日本脳炎ワクチンの接種（最も効果的）

ワクチンにより、日本脳炎の罹患リスクを75～95%減らすことができると報告されています。定期予防接種は、市町からの案内に沿って接種を受けて下さい。任意接種することも可能ですので、かかりつけ医にご相談ください。

■ 蚊に刺されない工夫

日本脳炎は蚊(主にコガタアカイエカ)によって媒介されるので、蚊に刺されない対策が重要です。

- ・コガタアカイエカは、田んぼやゆるやかな清流が主な発生源となっており、活動時間帯(夕方～夜明け)には屋外で過ごすことを避ける。
- ・戸外で過ごすときはできるだけ皮膚の露出を避ける（長袖、長ズボン等の着用）。
- ・虫除けスプレー等を活用する。
- ・網戸を閉め、蚊が家の中に入らないようにする。

■ 十分な休息

休養、栄養、睡眠を十分にとり、過労を避けて、免疫力を維持して発症を予防する。

1. 日本脳炎の定期予防接種の標準的なスケジュール

第1期と第2期あわせて計4回の接種を行います。

第1期接種(計3回)	3歳のときに2回(6～28日の間隔をおく) その後おおむね1年の間隔をおいて(4歳のときに)1回
第2期接種(1回)*	9歳のときに1回

*特例措置：平成7～18年度に生まれた方で20歳未満の方は、平成17～21年度に日本脳炎の予防接種を受ける機会を逃している可能性がありますので、母子健康手帳などをご確認いただくとともに、今後、市町からの案内に沿って、予防接種を受けていただくようお願いいたします。(平成29年度～令和6年度の間に18歳となる方も第2期接種対象者)

2. 日本脳炎感染源調査について

ブタの感染状況は日本脳炎ウイルスまん延の指標になり、ブタに感染が広がった場合、ヒトに対する感染の危険性が高くなっていると考えられています。このため長崎県環境保健研究センターにおいて、出荷ブタが日本脳炎に感染しているかどうかの調査を行っています。

対 象：生後5～9ヶ月のブタを各回10頭ずつ、8回（計80頭）調査

調査期間：6月上旬から9月下旬

検査内容：①ブタ血液中の日本脳炎ウイルスに対する抗体の保有状況

②ブタ血液中の日本脳炎ウイルス遺伝子の有無